

うです。そうすると伊藤さんがじつとその名刺を見つめ、顔色をかえてだまりこんでしまわれたそうです。それで近藤先生が不思議に思われ、「どうしたのですか」といって尋ねられたそうです。そうすると伊藤さんが「これは私の親戚だと思っ、速記ということ、中根ということ、京都ということ、これは間違いない私の親戚だと思っ」といって次のようなことを話されたのだそうです。

中根家には子供がなく、自分が養子に行くようになっていた。しかし長女智嘉穂、長男正親が生まれたために養子のこととはなくなったが、いつも中根家に入りし、兄正親をあやしていた。ところが、自分新潟県に行くし、中根は両親も亡くなり、子供達がどこに行つたかわからない。本籍地は島原だからお墓参りには来るだろうと思ひ、ある時島原に帰つた時、お墓のある江東寺の位牌堂に行つて、そこに名刺をはさんでおいた。それから三年たつた後、またそこに行つてみると、名刺はそのままだつた。中根の子供たちはどこに行つたのかと念頭を去らなかつた。それが今、見せてもらった名刺が、速記ということ、中根ということ、京都ということ・・・おぼろげながら記憶にあつたのでこれは長い間探していた親戚の中間に違ひない」ということをいわれたのだそうです。近藤先生もすっかり驚かれたそうです。東京ではまだ速記学校はやっていなかったたので、名刺には京都速記学校長としていたと思われます。

伊藤 彰さんのお母さんは私の父のいとこにあたる人でしたが、東京に伊藤源三郎という叔父さんがおられるので講演がすんだら連れて行くといわれたたのです。伊藤源三郎という叔父さんの名前も子供の時か